

地方都市視察報告書

自治・議会・行財政改革等特別委員会

1 実施日 令和6年10月30日（水）

2 視察地 茨城県取手市

【市の概要】

(1) 面積 69.94km²

(2) 人口・世帯数(令和6年12月1日現在)

人口 106,010人

世帯数 52,172世帯



(3) 取手市は、茨城県の南端に位置し、利根川とその支流である小貝川の二大河川が流れる水と緑に恵まれた地域である。市民の憩いの場である「取手市民公園」や、四季折々の花々が楽しめる「小貝川ふれあい公園」などが有名で、春には桜が美しく咲き誇り、多くの花見客で賑わう。

茨城県の南部の玄関口としてばかりでなく、東京、成田、つくばを結ぶ三角形のほぼ中央に位置していることから交通の要となっており、首都圏の都市の中でも、交通の利便性と自然環境に恵まれた都市環境をもっている。近年ではつくばエクスプレスの開通により、都心へのアクセスが向上し、若い世代の移住者も増えている。

市内には、江戸時代から続く「取手宿」があり、当時の面影を残す建物や街並みが見られるほか、「取手神社」や「八坂神社」などの神社もあり、これらの神社では、年間を通じて様々な祭りや行事が行われ、地域の人々に親しまれている。

なお、平成17年に近隣の藤代町が取手市に編入合併し、現在の取手市の姿となっている。

3 視察項目・内容
議会改革について

4 視察参加者

【委員】

川村 のりあき委員長	大 門 さちえ副委員長	田 中 ゆきえ委員
鈴 木 ひろみ委員	豊 島 あつし委員	野もとあきとし委員
近 藤 なつ子委員	さわい めぐみ委員	

【随行】

議会事務局議事係 黒木 明子 波多野 浩二

【共同視察者】

議会事務局次長 高橋 美香

5 視察結果・所感

取手市は、早稲田大学マニフェスト研究所が発表している「議会改革度ランキング」が毎年上位で、マニフェスト大賞※の常連となっている議会改革の旗手ともいえるべき市議会であり、ご対応いただいた議会運営委員会委員長が、市民視点で議会改革のためになるであろう案については、まずはやってみるという姿勢が印象的だった。オンラインによる委員会出席を可能にしたこと、委員会で初のオンライン表決を実施し、総務省に要望書等を提出した経緯、議会会議録視覚化システムを試行導入したこと、完全ペーパーレス化により半年で9万枚の紙の削減と職員の時間外勤務が年間約130時間の減となったこと等について説明を受け、質疑を行った。

また、議会BCPは策定していないものの、ICTを活用した実践的な議会災害対応訓練を行っており、当委員会が行っている議会BCP案の策定の議論にも資する視察となった。

※マニフェスト大賞…地方自治体の議会、首長、市民等による、地域の民主主義向上に資する優れた取り組みを募集し、表彰するもの。

6 主な質疑項目

- (1) Am i V o i c e®などの電動文字起こしについて
- (2) 電子投票システムについて
- (3) 委員会での電子投票による選挙に至った背景と仕組みについて
- (4) 本会議におけるオンライン質問の導入経緯と運用ルールについて
- (5) 様々にICTを活用して災害に対応した準備を行っているのに、議会BCPを策定しない理由について
- (6) 議会改革に区民の意見をどう生かしたかについて
- (7) 議会改革のための予算をどう確保したかについて
- (8) 議会BCPをあえて策定せず対応をとられている点について
- (9) 全国に先がけた議会改革を進めている取手市だが、ICT化などをすぐに進めていくことができた理由について
- (10) 議会事務局職員の能力を最大限生かしてもらおうという概念が新しかったことについて
- (11) 情報を上げることに特化、その為のICT化が素晴らしかったことについて
- (12) 予算が少なくとも活性化のためのICT化は可能であることについて
- (13) オンライン委員会によって、感染拡大時の有事に加え、平時でも議会の機能を円滑に果たすことが可能となることについて



議場にて、取手市議会 赤羽議会運営委員長（左から4番目）と



講義中の様子